

解 答

□

問一 絵をかくことが好きで、本職の絵かき用の道具を使って本格的に絵をかいていること。

問二 (1) 対象 (2) 木々に透けて見えるチャペル

問三 ウ

問四 ぞうきん

問五 自信を持ってかいた自分の絵を、美しくかくための技術に走った心のない絵だと、図画教師に否定されたから。

問六 丁寧に素描し、一筆ごとにきれいに筆洗で洗い、点描派のように色を重ねていく描き方。

問七 今のかき方をこわす〔ための戦い〕

問八 A ウ B エ

□

問一 A オ B イ C ウ

問二 I A II A III A IV B V B

問三 森は、自分の落とす有機物である落ち葉や枯れ葉で土地を肥やし、その土地から養分を得て生長を続けていくということ。

問四 需要

問五 からです。

問六 森林は、規模が大きく、多くの種類の生物が住み、光合成する力が大きいのでエネルギーの供給が十分であり、生物と環境との関係も密接でつりあいが保たれているため、物質循環がうまくはたらきつづけられるから。

□

1 鼻 2 腹 3 手 4 歯 5 顔

解 説

□

問一 傍線①を直前から続けて読むと、「その日まで、満磨は絵については一言ももらさなかった」となっていますので、「満磨の絵」についての記述を問題箇所付近で探しましょう。要点は、①本職の絵かきが使うような画材を使っている②絵を描くのが好き（得意）で熱心に取り組んでいる、の二点です。

問三 傍線③の前後を確認しましょう。図画教師は、満磨の描いた「額縁屋の絵」すなわち「色付き写真のようにきれいな絵」を否定し、「わたし」の絵をほめています。わたしの絵が額縁屋の絵と違うところは、「赤の色がおもしろいね。神経が出るよ。」という点です。答えはウとなります。

問五 問一で見たように、満磨は絵を描くことが好きで熱心に取り組んでいたわけですから、図画教師にそれを頭から否定されて面白いわけがありません。本文での図画教師の言葉は抽象的ですし、また、この問には「自分の言葉で説明しなさい」との条件がついていますので、文中の表現をそのまま用いないよう注意しましょう。

問六 傍線⑥を直前から続けて読むと、「最初にわたしをびっくりさせたような丹念な筆致はない」ですね。ですので「最初にわたしが彼の絵を見てびっくりした場面」を探せばいいわけです。1ページ後半「満磨は4Bを軽く持って～その発色が実に鮮やかで、みずみずしい。」を要約しましょう。

□

問三 傍線①の直前「森林では自然のままに～よくしているからです。」が答えの要素となりますが、設問に「自分の言葉でわかりやすく」とある点に注意しましょう。①森は自分の落とす有機物でその土地を肥やし②その土地から養分を得て③生長を続ける、の三要素が書けていれば結構です。

問五 抜き出された文の文末が、「というようなものです。」となっていることから、これは何かの比喻であることがわかります。生物の多様性が守られている生態系を、学校のクラスに例えて説明しているわけです。

問六 本文の後半の構造を確認しましょう。「長続きする安定した生態系の条件とはどんなものでしょうか。」という問いかけの文に続き、その答えが「まず第一に、～」「つぎに～」三番目に、～」「つぎに～」最後に～と列挙されています。さらに「こうした条件を考えると～といってもよいでしょう。」の部分で物質循環の重要性をおさえ、末尾三行に「森林という生態系がいかに優れているか」がまとめられています。ここでは、末尾三行の内容を骨格とし、それに肉付けする（補足する）というやりかたで自分の解答をまとめましょう。